

第1回大井町総合計画審議会 概要

日時：令和6年12月13日（金）

15時00分～16時30分

場所：大井町役場3階 301会議室

委員

出席者：伊藤奈穂子委員、岡田幸二委員、柳川重男委員、布施晃延委員、近藤達朗委員、寺下かつ子委員、渡辺泰次委員、◎隅田清一委員、山本孝夫委員、菅谷学委員、白井範雄委員、中村知裕委員（◎は会長）

欠席者：中條政夫委員、米山裕司委員、中村勝信委員、保土田玲子委員

事務局：湯川博之参事兼企画財政課長、原雅紀副課長、岸春希主事、浅井康雄（ランドブレイン株式会社）、宮本史人（ランドブレイン株式会社）、大森勇輝（ランドブレイン株式会社）

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 町長あいさつ

町長より挨拶

4. 会長選出

会長に隅田委員、職務代理に山本委員を選出。

5. 議題

- ・ 議事概要の公開に際しては、発言者の氏名は伏せること。
 - ・ 審議会については、会議の傍聴を可とすること。
- 上記2点について、了承された。

(1) 大井町第6次総合計画後期基本計画の策定について

①策定方針・策定スケジュールについて

- ・ 事務局より、計画策定の方針、策定の趣旨について説明（資料①）。策定スケジュール、総合計画審議会スケジュールについて説明（資料②）。

【質疑】

委員：総合計画審議会について、第5回は諮問、第6回は答申となっているが、それぞれ誰に対して諮問、答申を行うのか。

事務局：総合計画の原案についての諮問・答申を行う。諮問については町長から会長に対して、答申については会長から町長に対して行う。総合計画131ページに前回計画の諮問と答申を記載しており、この諮問・答申を経て議会上程しご審議いただく流れとなる。

委員：承知した。

②アンケート結果について

- ・ランドブレイン株式会社より、アンケート調査結果について説明（資料③、④）。

【質疑】

委員：満足度と重要度について、重要度1.7、満足度1.3というのは何を示した数値か。

事務局：満足度と重要度は5段階評価の回答となっている。5が最も高い評価であり、アンケート回答の5は2点、4は1点、3は0点、2は-1点、1は-2点のように点数付けをして算出をしている。これらを41施策すべてに対して計算し、1つ1つの施策のスコアを算出した。41施策の重要度の平均値が1.7、満足度の平均値が1.3となっている。

委員：満足度と重要度について、町民のものと職員のもので違う結果が出ているが、これらについて、町民と職員とは異なる設問で実施しているのか。

事務局：まったく同じ設問にしている。

委員：質問が同じではあるが、町民と職員とで結果が異なっているということで承知した。

委員：職員アンケートにおいて、職員が大井町在住か、そうでないのか把握しているか。

事務局：把握している。職員は6割が町外、4割が町内となっている。自治基本条例では在住在勤もすべて町民として扱うことになっているため、職員は一律で結果を出している。

委員：そうすると、職員でも大井町内・外在住で基準が変わってくるのではないか。

事務局：住民がこう考えているだろうという憶測で回答している職員がいることは事実だと思うが、町内に関わって仕事をしているということで、職員と住民という区分けをしている。

委員：オンライン回答は若い方の回答が多くなっていると考えられるが、オンライン回答の割合はどのくらいであったか。

事務局：有効回収数911票のうち、298票がオンライン回答であった。オンライン回答は50～60代くらいまでの方の回答が多く、70代、80代については紙面回答が多かった。

委員：満足度と重要度の関係において、町民アンケートでも職員アンケートでも子育て支援に関しては重点維持エリアに位置している。子育て世代の回答数は回答全体の1割くらいだったので、子育て世代の方々の回答が集まれば、結果が変わってくるのではないかと。

事務局：子育て世代についてはこのアンケートだけではなく、子育て世代向けに別で実施しているアンケートもあるので、それも併せて政策を展開していこうと考えている。総合計画の町民アンケート結果と合体させるとするのは難しいかもしれないが、そのような他の調査も併せて検討を進めていきたい。また、今後実施される職員ワークショップや、町内企業等に参加していただいたまちづくりワークショップでも意見をいただいている。さらに、今後実施されるパブリックコメントなどを通して意見を吸い上げて、町の方向性に反映していきたい。

委員：このアンケートがすべてではない、ということで承知した。

委員：アンケートで抽出された3,000名の世代については、平均的に振り分けている、との認識で良いか。

事務局：ある程度バランスを考えながら要件を設定し、抽出をした。そのような抽出のなかで若い方の回答は少なかったということになる。

委員：満足度と重要度の散布図について、回答者の年代層により左右される点は注意が必要である。また、気になったところというと、観光や財政運営については町民と職員では大分見方が違うと考えられる。またもう1点として、前回調査との違いなどに着眼することが重要になると考える。

事務局：これですべての施策の方向性を決めるわけではなく、町民の感覚を示す1つの指標として扱っていく。これまで必要なものを行政運営しているが、今の住民ニーズがどこを向いているかというところで、今までの総合計画のアンケートでは公園が欲しいという意見が最も多かったものの、中央公園ができたことで重要度が下がった。今回のアンケートではその次に求めるものとして、公共交通が課題として見えてきた。ただ、公園が欲しいという声は無くなったわけではなく、公園から離れた地域の人には公園が欲しいと感じているとも考えられる。よって、これを鵜呑みにするわけではなく、それぞれの部局でかみ砕き、施策展開していきたいと考えている。今後、職員等での検討会などで引き続き検討をし、委員のみなさまに審議いただける形にしていきたい。

委員：策定方針の中に、「総合計画は町政運営の指針」と書いてあるが、職員アンケートでは総合計画を「見たことがない」という回答が10%あった。この要因は何か。

事務局：日々の業務に追われて見ることができない、ということと、総合計画そのものよりも総合計画の下にある実施計画を中心にしているということが考えられる。ただ、総合計画を見ていないということは重要な問題ととらえており、後期基本計画を作るにあたっては職員の意識改革を進めていかなければならない。

委員：アンケート結果を見るときには地区別にも見ていただきたい。地区によって認識が異なる部分もあるため、そのような見方もしていただきたい。

事務局：仰るとおり、地区によって課題は異なっていると考えている。地区別のクロス集計も見て課題を確認していきたい。また、今後パブリックコメントや説明会で意見を聴取できればと考えている。

(2) その他

委員：自治会に未加入、脱退する人が増えている。町で何かを行う際に自治会長中心で行うが、自治会に入っていない方の意見を吸い上げることができず、こちら側の意見も伝えることができない。若い方も多く転居されてきているが、転居してきた方も自治会に入るよう町で示してほしい。自治会に入会するという事は自治基本条例にも記載されている。今後いろいろなことを決めていくにあたって、自治会に入ってもらわないと情報が隔々まで届かない。

事務局：町としても自治会加入を促進するべく、スーパーや金融機関等での広報の配架や、SNSを活用した情報の発信・収集を行い、そこからの自治会加入を促すように動いている。今後も自治会に入ることのメリットを広くPRをしていきたい。貴重な意見として承った。

委員：免許返納で足がない、という高齢者が増えてきた。開成、松田、大井町で一緒に広域でできる取組みがないかと考える。そのあたりも検討いただきたい。

事務局：公共交通会議を立ち上げており、公共交通計画の中でも広域連携が含まれている。また、総合計画にも広域連携の部分はある。大井町では何ができるか、引き続き検討を進めていきたい。

委員：若年層の意見は貴重なものだと認識している。高齢者への対応は当然重要だが、若い方が地域に残ってもらうことも重要だと考える。若い方の意見聴取やアンケートを実施しても良いのではないか。

事務局：大井町まちづくり会議は11月に2回実施した。これにプラスして中高生の意見を伺う会議も実施した。学校の協力を仰ぐことはなかなか難しいが、大井町の将来を担う子どもたちが大井町に住み続けるためには何が必要なのかを聴取できるように考えていきたい。

6. 閉会

- ・第2回審議会については令和7年2月下旬から3月中旬頃に実施をする。今後の審議会の題目については、第2回開催時にスケジュールに組みこんで事務局より提示する。